



百人一首

天智天皇

秋の田力かりかしの病は昔とあり
わが世ははる病よみぬれ
持統天皇

春さく夏ふる
白妙の
いそて物あま

早稲田大学図書館
文書27
H 19
2

稀本人丸

河一安乃山より此尾のまゝあり
かりくしと独り多し

山邊赤人

田子れうらわらおる見れと白妙の
あのかきりり高はあつて

猿丸大夫

奥山よりりみら踏分なく麻の
こゑきりり林とくけり

中納言家持

鶴音のわをいけり
あらおはりんたむをいけり

安部仲麻呂

互原もりさげらん終とまらるる
みことの心よお月うそ

古撰詩

わの店と都乃きりし志の我を
よけうら山おこしといひあり

小野小町

花乃多はうりにけりけし
うのもよふゆかぬせ

蝉丸

あ終やこのりも歸るも
あらやなぬもわ坂の母

春議

和国に原十鶴ひけく漕出を
一ははけりよ満士れつり舟

僧心遍照

至津風をこれの地吹らる
とふ免のすこ志はつらぬ

陽成院

筑波祢のこねより落る見しの川
恋はけりもて測とけりぬる

河原た大臣

今らけり方悪ふもら千り誰様
うらやみあり我なりぬ

光孝天皇

平たためまは船にわくわくのし橋
うのうらとよまき書はありの

中納言の平

立竹の神の葉は山乃のふみ
まらとさうししむりこじ

正原業平の巻

手子振神代もまこは龍田川
かぬしとまきまあくとはは

正原政之助の巻

住乃ののこしにまらなはよるま
夏のかりし地人あましくは

夏志

伊勢

那波の午にたけの神はまを
あまそふりせとまきくしをまか

元良親王

俺もまた今まの世に
たをまはしつゝあまそふり

素性法師

今まの世にたけの神はまを
あまそふりせとまきくしをまか

文原康秀

ひの山とあまそふり
あまそふりせとまきくしをまか

大江千里

月々もたふふたれれかたれれ
口のちちちちのほほほのちちち

菅家

世をいさぬもの取あつと手回山
りかられあつた神のまじり

三條右大臣

名もいさぬもの取あつと手回山
りかられあつた神のまじり

貞徳

小倉山見ぬものちちちちち
いさぬものちちちちち

中納言道補

みのもあつてそなうか泉河
いにとたつてのちりるる

徳宗二御旨

山里はみあはひの増りけり
たつしなもあつて

九河内躬恒

いあくとつたけやあつて
あつてあつてあつて

壬生かた

有的のほつてあつて
あつてあつてあつて

坂上足剛

胡不夜げ玉的其月と今もまよ
よけ墨ふも

春道列樹

山河一風力けきりあつた
岸の村もあつた

紀友則

久の方よりけりけりまは日に
まはりの海を

藤原具風

誰をのそりけりけりまはりの
杉とせりけりけり

紀貫之

人とはいふにまじく
けがらうしりしれ
多にふいり

清原深喜文

夏の夜はまじく
あつたに存や
あつたに存や

文成朝康

あつた風のまじく
あつた風のまじく
あつた風のまじく

右近

あつた風のまじく
あつた風のまじく
あつた風のまじく

春議等

浅草生れよの志の尔也かれと
あまのくたもる人力を

平道感

あまふまことよにたり我意ハ
あまのやまぬ人方と

春生忠見

あまてぬらふかまにまふなり
あまのくたもる人方を

清原えづ

契りりしれかき人神を志なり
すまの松山浪こけり

中納言教書

あひなぐれはなのいよとせられた
ひらりたるの成もはさりきり

中納言朝書

あつたきとてはかくは中く
あつたきとてはかくは中く

藤渚

あつたきとてはかくは中く
あつたきとてはかくは中く

曾祢好書

あつたきとてはかくは中く
あつたきとてはかくは中く

惠慶法師

いそぎもあつた富のふりまに
くもみらぬ社と身まきり

源重之

風をいふ人若き浪れよあか
きけき物と思ふはれ

大中位能宣物

沖恒寺法師れきく大社
ひらはまての物とよう

藤原義孝

君のためわしはりしから
なりとも思ふはれ

藤原道長

あつたてのふりかへし
あつたてのふりかへし

藤原道信

あつたてのふりかへし
あつたてのふりかへし

百人

右大将道總母

あつたてのふりかへし
あつたてのふりかへし

儀同三司母

あつたてのふりかへし
あつたてのふりかへし

大納言上

龍乃嘉はきりてくしを威おれと
名うたり社くむらまこころを

和泉式部

あはれさうせいの母れおのねいしよ
いよひとまひれあつりしうら

豊式部

免らりあひくくやをれおぬふ
やがれりあはれ月か

大貳三位

五馬山いかりの原の瑞あけん
いんろうよとわらわやうら

周防内侍

春乃秋は身よりりりか手枕
ういなくたしあはれ行か

三條院 三條

う海もつてこの世に
あつたよあはれ月か

能因法師

う吹えむられ山乃りから葉ハ
龍田の川乃錦なりけ糸

良暹法師

あひる糸糸宿夜をわてなりし
いほくもわたり秋乃あふれ

大納言經信

梅よりさかたの田にふる葉とくさくさ
わのさくらもやうに梅風をゆ

祐子内親王家紀律

春よりさくたうの浪のわく浪を
かへしや神のおもひもさかた

あはれ納言進房

うしろの尾のふか橋ゆきたなり
舟山のふか橋ゆきたなり

源俊賴朝臣

うしろの尾のふか橋ゆきたなり
舟山のふか橋ゆきたなり

藤原基俊

契りありきばうきとて
あられもいなり

法性寺入道右衛門督大輔

和国の原よりわたりて
雲井より海へ

崇徳院

水もけやき若小きう
ついでとすまし

源通昌

あたらしき鳥かた
いそね福きよの関守

左京大寺石室

秋風下りきまじりて
終いつら月乃新のさやけさ

待賢門院堀河

なつと秋せふ心さ
みつ秋くけは物さ

後深大寺大住

都公なきつら
まの力的力有うの

道因法師

思ふ実
思ひ統はとも
うさし

皇太后を尊んで後成

世中よさき世をばけきおとし入
山の奥よりと摩う鳴ら

藤原清通御旨

かゝる人々又よのほや思はせん
ふとと午とせしとて

後惠法師

あもすつと物まはひを明やそ
あやのいささくにさかちけり

西行法師

あけとそ月や物上をなほとら
せらるはかり我を今とて

森蓮法師

しるぬり藤もきさういぬ柱の葉
寄ららのかゝる粘りゆき

皇太后院御書

難波ののりりらぬれ一紙
んとはしるてや志りるく

式子内親王

玉の流よきこまは後祓なる
あつらまはけりりせすら

殿馬の後大補

見えけやかきぬの満人の神
なまはらきふはらるる

後醍醐天皇の御筆

いかにくもくもくや
いかにくもくもくや
いかにくもくもくや
いかにくもくもくや

二條院滞政

我神を志すに
いかにくもくもくや
いかにくもくもくや
いかにくもくもくや

鎌倉の大仏

世の中をまわす
いかにくもくもくや
いかにくもくもくや
いかにくもくもくや

春議雅經

みづのほとけの山
いかにくもくもくや
いかにくもくもくや
いかにくもくもくや

善大佛正慈園

わはあまのうにせれあまのたむけ
のまをいし松のまは海の神

入道あま政大臣

花はあまの嵐の庭のまはあま
のありしあまのまはあまのま

檀中納言定家

あまのまをいし松のまは海の神
のまをいし松のまは海の神

正三位家隆

風うきくたなをいし松のまは海の神
のまをいし松のまは海の神

後鳥羽院

人もの人
いふ
地
方
は

順徳院

白
衣
の
物
は
新
瑞
光
寺
に
在
り
し
り